「教育学科の会」および「生涯学習センター」連携講座

教育学科の会「懇話会」（片桐講座）のお知らせ

会長　井上　信子

日本女子大学は、2021年に創立百二十周年を迎え、世界的建築家による新校舎や図書館の建設、また新学部の開設などにより、新たな百年に向けた一歩を踏み出しました。

そして、その進歩を根底から支える精神的支柱とも言うべき大著『評伝・成瀬仁蔵―女子高等教育から「社会改良」へ―』が上梓されることとなりました。

著者は、長年、教育学科で教鞭を執られた、日本教育史の泰斗、片桐芳雄先生でいらっしゃいます。「教育学科の会」では、是非、先生ご自身から直にお教えを乞いたいと、毎年12月開催の懇話会でのご講演を企画しましたところ、時を同じくして「生涯学習センター」でも同様の計画があることがわかりました。

生涯学習センターの講座は、「成瀬仁蔵に学ぶ」と題し、全3回の講座として、第一回「女性観」10/9、第二回「教育観」11/13、第三回「宗教観」12/11で開催されますが、上記の経緯から、第三回は「教育学科の会」と「生涯学習センター」との共催でおこないます。

教育学科の会では、毎年、文化祭にあわせてホームカミングディも実施して参りましたが、このような講座に参集することこそホームカミングディと考えての連携講座でもございます。どうぞ奮ってご参加ください。

日　　時	2021年12月11日（土）午後1時から2時半
講　　座	「教育学科の会」と「生涯学習センター」との共催
テ ー マ	「成瀬仁蔵の宗教観―キリスト教と帰一思想をめぐって―」
講 演 者	片桐芳雄先生（本学名誉教授、評議員）
方　　法	Zoom配信　無料
申し込み	教育学科の会　文化部　中込までメールでお申し込みください nakagomechino@gmail.com
締め切り	11月30日（火）

＊4頁に詳細情報を掲載しております。あわせてご覧ください。

— 第79号 —

〒112-8681
東京都文京区目白台2-8-1
日本女子大学教育学科の会
電話　03（5981）7500
ホームページ
http://jwu-gakuen.net/
メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

提言

教育というコミュニケーション

教育学科教授　今井　康雄

主に1年次生を対象とする「教育学概論」の講義を担当してきました。最近は初回に次のような問いを出すのが定番になっています。〈知らない人に道を聞かれて道順を教えたとする。この、道順を教える、は教育か？〉

たいていの学生は否定的に答えます。「単なる親切であって教育ではない」、あるいは「その場限りの情報伝達にすぎず相手を成長させるわけではない」など。中には肯定的に答える学生もいます。「うまく道順を教えるためにはそれなりの工夫が必要」、あるいは「相手はともかくも新しい知識を得ている」など。この否定・肯定のそれぞれ最初の方の意見は意図（教育的意図を持っているか否か）を、後の方の意見は結果（教育的結果が得られたか否か）を、基準に判断しています。このどちらも教育学の標準的な考え方です。ヘルバルトは意図派の、デューイは結果派の、代表と言えるでしょう。

しかしそれ以外の考え方はないでしょうか。たとえば、本当に伝わったか心配になって、「私の言ったことを復唱してみてください」とか「この紙に道順を書いてみてください」などと「試験」をしたとします。するとたんにこの両人のやりとりは「教育的」に見えてくる。意図でも結果でもなく、ここに現れているような独特のコミュニケーションのあり方として、「教育」を定義できないでしょうか。教育は、相手が本当に理解したかどうかが気になって仕方がないコミュニケーション、という一面を持っています。なぜ気になるかと言えば、もともと伝わりにくいことを伝えようとしているからでしょう。教育ということで試みられるのは、道順とは違って（普通私たちは道順が伝わったか否かを「試験」しようとは思いません）、単に告げるだけでは理解が難しいような事柄を理解させることなのです。

このように見れば、教育は、まさに現代的状況において求められるコミュニケーション、と言えるのではないでしょうか。現代の多文化的な状況の中では、ルールや常識を共有しない他者とも関係を築くことが求められます。そこで生じる様々な困難を、教育はあらかじめ考慮に入れており、困難を克服する様々な手立てを開発してきた、と考えられるからです。教育について学ぶことは、現代の多文化的な状況に漕ぎ出すための心強い支えになると思えるのです。

新目白キャンパスの紹介

本学は創立百二〇周年を迎え、人間社会学部が目白キャンパスに移転し、それに伴って新たな目白キャンパスが生まれました。都心にありながら、緑に囲まれた環境を生かした「目白の森キャンパス」をコンセプトとして作られた、新たなキャンパスの魅力をお伝えさせていただきます。西生田キャンパスから来た私たちと一緒に、新しいキャンパスのことを楽しんでみていただけたら幸いです。では杏彩館、百二十年館、新泉山館、図書館の順にご紹介させていただきます。

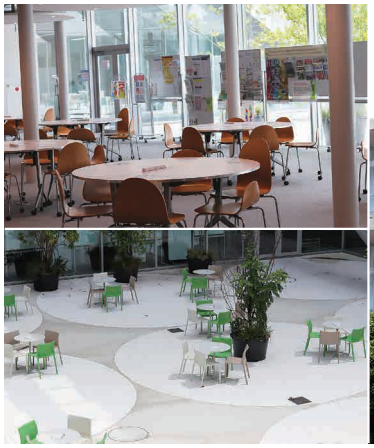
杏彩館

まず、杏彩館です。杏彩館はキャンパスの不忍通り側の入り口に面して建つ、目白キャンパスの顔の一つとなる建物です。普段は食堂、あるいは学生滞在スペースとして使用されています。心地よい静けさとガラス張りの窓から差し込んだ光に包まれた、温かい場所です。不忍通りとキャンパスの間には、二メートルほど高低差があるため、一階と二階のそれぞれに入口を設計し、学生たちがスムーズに建物の中に入っていくことができるような構造となっています。一階は約三百席もの椅子があり、お昼休みは食事を摂る学生でにぎわっています。テラス席とも繋がっているので、開放的でいて斬新なのに、どこか落ち着くことができる、そんな場所です。二階は曲線を描いた特徴的なソファが多くあり、個々人の居心地のいい場所を確保することができる場所です。友人との対話をして、考えを深めたり自分の悩みを軽くしたりすることができる場所でもあります。カフェの中にいるかのような落ち着いた空間が広がっています。

杏彩館テラス

続いて、百二十年館です。百年館の隣に新たに建てられた、教室と研究室のある建物です。キャンパス内の導線や周囲の建物、隣接する住宅街への圧迫感を抑えるため、できる限り高さを抑えた作りになっています。また、日の光や風通しを良くするために、大きな吹き抜けの中庭、パディオが設けられました。地下一階に設置された、ラーニング・コモンズでは学外学習を推進する場、自治体や企業などと連携し、社会や未来へと扉を開いていく場所として、学生の相談や支援などが行われています。学生の自主的な語学学習や異文化交流、異文化理解の支援を行う、ランゲージ・ラウンジも、このラーニング・コモンズに移動し、地域や世界とつながる拠点となっています。

続いて、新泉山館です。ここは、図書館と目白台公園との間に位置する建物です。四、五、六階には児童学科、三、七、八階には教育学科の研究室があります。入り口はガラス張りになっていて、清潔感と気軽に入ることのできる雰囲気となっています。三階には中央研究室がありません。こちらも白を基調とした、明るい造りになっています。一階には、国際会議、講演会などの利用が考えられている、百九十五人収容の大会



百二十年館

議室や、目白通りに面した談話室、二階には百人収容の教室、六十人収容の会議室があります。また、飲食ができる休憩スペースなどもあり、おしゃれな場所となっています。新泉山館には、小島ガーデンと呼ばれる中庭もあります。本学の文学部社会福祉学科をご卒業された後、一九六六年に本学に着任された小島元教授の名前にちなんでいます。国際交流を大学の学びとして確立するためにご尽力された方です。本学への多大なる貢献と熱い思いに感謝し本庭園は小島ガーデンと命名されました。吹き抜けには、本学の歴史が刻まれた大きなボードが飾られています。

（上）小島ガーデン　（下）中央研究室

新泉山館

最後に、図書館です。図書館は二〇一九年に目白通り沿い正門の向かい側に新たに建てられました。全蔵書は約六五万冊、座席数が六五〇席の大きな図書館です。全体的に白く、心が穏やかになるような落ち着いた造りとなっています。ガラス張りということもあり、陽が差し込むと更にきれいです。新たに、動く書庫も設置されました。取りたい本の書庫についているボタンを押して本棚を動かし、自分の気になる本を取り出します。勉強・発表スペースもあります。開放的でのびのびと学習することができます。新しいものだけではなく、以前から使われていた椅子や机も再利用され残っています。昔からあるものでも新しいものから浮くことなく、なじんでいます。夕方になって暗くなると、オレンジ色の暖かい色の灯りが図書館を包みます。

私たちはこのキャンパスがつながりをとても大事にして造られているなと感じながら、学校生活を送っています。地域の方とのつながり。過去と現在、そして未来へのつながり。世界と私たちのつながり。そういった、見えないけれど確かにあるものを、私たちは日々の忙しさの中でどこか忘れてしまっているような気がします。しかし、そのつながりは忘れていいものではありません。しっかりと存在を感じて、自分たちで掴んでいないとふとした瞬間に離れてしまう、そんな脆いものでもあります。抱えるものが何かと多く、今はつなぐこともためらわれるこの両手いっぱいに、私たちの大切な見えない何かをしっかりと掴んでいくことができるキャンパス生活を送っていきたいと思っています。

以上で紹介を終わります。これまでご紹介させていただいた建物のほかにも、目白キャンパスにはさまざまな工夫をされた施設、温かい人たちでいっぱいです。心置きなく外出できるようになりましたら、ぜひキャンパスに足を運んでみてください。学生一同、お待ちしております。

図書館

【井上ゼミ3年 井上千優、植田桃子、植村春菜、加藤あい、菅沼彩、竹島知里、納富香梅、船山あかり、山崎碧】

「2021年度　学縁のつどい」に関しまして

今年度教育学科の会・学生委員長を５月下旬から務めております、林 奈美と申します。私から、「2021年度　学縁のつどい」の開催に関するご報告を差し上げます。

前号の「葦」にて今年の「学縁のつどい」は時期を改めて開催するとのご案内が記載されておりました。私自身、卒業生の方々との交流を楽しみに、先生方と開催の検討を進めてまいりましたが、昨今の新型コロナウィルス感染拡大に鑑み、中止という決断にさせていただきました。心待ちにしておりました先生方や卒業生の皆さまには大変申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【学生委員会　3年　林 奈美】

第60回総会報告

本年度の総会は、新型コロナウィルス感染拡大防止のためＺｏｏｍを使用したオンライン方式で５月29日（土）に行われました。（５月16日（日）までに申し込まれた方にＺｏｏｍに参加するためのＵＲＬをお送りしました。）

総会報告として、まず会長挨拶があり、令和２年度事業報告及び各部報告、決算報告、令和３年度事業計画、それに伴う予算案、理事候補の承認が行われました。

令和２年度の主な事業は、以下の通りです。第59回総会は新型コロナウィルス感染拡大防止のため、ホームページに議案を掲載した上、異議や質問があれば、１週間以内にメールで申し出ていただく方法によって行いました。５月30日（土）に掲載し、６月６日（土）までの１週間の間に異議がありませんでしたので成立とさせて頂きました。（それ以前の理事会では賛成を得ています。）また、毎年総会の後に行われている学縁の集いは中止になりました。

毎年日女祭にあわせてホームカミングデーを開催し、講演会やシンポジウムを行って来ましたが、これも新型コロナウィルス感染拡大の状況に鑑み、日女祭が中止となり、それに伴い、ホームカミングデイ、講演会も残念ながら、中止となりました。

懇話会は、12月５日（土）にＺｏｏｍシステムを使用し、初めてのリモートで行い、遠方からの参加もありました。パソコン画面を共有して、教育学科・清水睦美教授による「コロナ禍での学校を考える－一斉休校、学校再開と教育格差の関連を考える」を伺いました。最新の学校教育の現場が抱えている問題と休校から再開への段階的な措置の中で行われた分散登校が少人数学級の実践の場となったこと、これが現在の問題解決の糸口になっていること等話して頂きました。（詳細は「葦」第78号をご覧下さい。）

今回の総会はオンラインで行ったことにより、遠方からの参加がありました。

【副会長　25回生　浦野敬子】

2021年「懇話会」（片桐講座）のご案内

「成瀬仁蔵の宗教観 ―キリスト教と帰一思想をめぐって―」

日本女子大学名誉教授　片桐芳雄先生

【日　　時】12月11日（土）　午後1時から2時半
【場　　所】Web 会議システム Zoom を使い、オンラインにて開催いたします。
【申し込み】ご参加希望される方は文化部中込知野宛にメールにてお申し込み下さい。
申込アドレス：nakagomechino@gmail.com
【締め切り】11 月 30 日（火）

※1頁もあわせてご覧ください。

〈片桐芳雄先生より〉

熱心なキリスト教徒で牧師まで務めた成瀬仁蔵は、新潟時代の経験を経て、キリスト教を「研究」する必要を感じます。そして、アンドーヴァー神学校のタッカー教授に師事した成瀬は、キリスト教を超えた「新しい宗教」を求めるようになりました。

人は、おのおの、「神」と「我」を「帰一」（一体化）させた「私の宗教」を持つ。そして、それらは、その根底にある「デモクラシーの根本精神」によって一つになる（「帰一」する）。成瀬が、最後に到達した、宗教的境地を検討します。

本講座は、セミナー形式で行ないたいと思います。１講座 90 分のうち、私の話はなるべく 60 分以内に抑えて、残る時間で、活発な質疑応答が行なわれることを期待します。

Profile

片桐芳雄先生のご紹介

専門・日本教育史。教育学博士（東京大学）日本女子大学名誉教授、日本女子大学評議員、愛知教育大学名誉教授、（公財）野間教育研究所評議員

1944 年生まれ。東京大学教育学部、同大学院を経て 1975 年愛知教育大学講師。以後、助教授、教授。2000 年 4 月日本女子大学教育学科教授。2007 年 4 月から 2011 年 3 月まで日本女子大学人間社会学部長。2012 年 3 月定年退職後は「成瀬仁蔵とその時代研究会」を立ち上げ成瀬仁蔵研究に専念。

日本女子大学教育学科の会
令和2年度決算書（令和2年5月1日～令和3年4月30日）
令和3年度予算書

収入の部

項　目	令和2年度			令和3年度
	予算	決算	差額	予算（案）
会費	3,790,000	1,686,490	−2,103,510	3,249,500
受取利息		25	25	
収入の部合計	3,790,000	1,686,515	−2,103,485	3,249,500

支出の部

項　目	令和2年度			令和3年度
	予算	決算	差額	予算（案）
奨励金	30,000	0	30,000	0
印刷費その他				
人間研究（450部）	300,000	148,500	151,500	300,000
会報（送料・会報発送委託費含む）	1,300,000	1,892,548	−592,548	1,800,000
名簿	10,000	0	10,000	
名簿データ管理料	130,000	293,040	−163,040	300,000
行事運営費				
大会	130,000	0	130,000	130,000
懇話会	100,000	0	100,000	100,000
ホームカミングデー	100,000	0	100,000	100,000
理事会等運営費（会議費）	30,000	0	30,000	30,000
活動費				
研究室委員会	260,000	28,507	231,493	110,000
学生委員会	60,000	1,998	58,002	60,000
回生委員会	100,000	4,348	95,652	30,000
総務部	80,000	440	79,560	80,000
会計部	30,000	0	30,000	10,000
会員部	14,000	3,868	10,132	8,500
庶務部	61,000	31,667	29,333	18,000
文化部	50,000	37,549	12,451	18,000
会報編集部	80,000	38,733	41,267	60,000
送料・通信費	800,000	9,720	790,280	10,000
事務・消耗品費（会報ハガキ印刷代含む→含まず）	30,000	3,300	26,700	10,000
雑費（卒業生ボールペン代）	10,000	0	10,000	10,000
ホームページ（サイト保守・レンタルサーバー代）	65,000	63,549	1,451	65,000
桃柿育英会（震災義援金）	20,000	0	20,000	
支出の部合計	3,790,000	2,557,767	1,232,233	3,249,500

⇓

令和2年度収支差額	−871,252
前年度からの繰越金	3,961,248
次年度への繰越金	3,089,996

上記のとおり報告いたします。　令和3年5月29日

教育学科の会　会長　井上信子

会計　野田エリ

上記について慎重に監査した結果いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事　古戸のぶ子　吉賀眞理子

令和3年度　教育学科の会　理事（数字）は回生

【会　長】		井上　信子（教育学科教授）
【副会長】		浦野　敬子（25）／大森　桃子（26）
【研究室委員会】		田中　雅文（教育学科教授）
		五十嵐 敏文（教育学科助教）
【回生委員会】	委員長	萩野　厚美（25）
	副委員長	宇野　儀子（25）
【総務部】		未定
【会計部】	部長	野田　エリ（39）
【会員部】	部長	松尾 里羽子（31）
	副部長	青木　紀子（31）
【庶務部】	部長	杉山　京子（27）
【会報編集部】	部長	石井 美奈子（38）
【文化部】	部長	中込　知野（37）
	副部長	赤塚　国子（24）
【学生委員】	＜１年次＞	秋山 カレン／芥田　京美／藏谷　聡子
		小松原 美紗／野中　志美／箱守　佑夏
		柳田　玲奈／山野邊 舞鈴
	＜２年次＞	牛田　早紀／加藤　梨乃／鈴木　紗葉
		清藤　芽依／西村 佳奈子／生和　輝流
		森　理紗／米田　舞
	＜３年次＞	阿保 奈梨加／石井　瑠花／兒玉　英莉
		佐々木 美緒／竹島　知里／中山　瑠菜
		林　奈美／宝地戸 愛伶／松本　未音
		宮田　樹／渡邉　りさ
	＜４年次＞	井形　桃子／稲田　妃桃／小倉　朱夏
		加藤　有貴／曽根　千佳／平間　美樹
		丸山 実咲季／室星　咲彩／山下　はな
		山本　風音
	＜大学院生＞	木村 早紀子／前田　裕月
【監　事】		古戸 のぶ子（27）／吉賀 眞理子（30）

会員の広場

ハルビン中医学留学の思い出

29回生　櫻井 慶子

２０１２年６月、私は中華人民共和国の最北端、黒竜江省の省都ハルビンにいました。中国の伝統医学を学ぶ黒龍江中医薬大学に短期留学したためです。

２０１２年という年は、現国家主席の習近平氏が中国共産党総書記に選出され、その２年前に既に日本を抜いて世界第２の経済大国になっていた中国が、更なる覇権国家を目指して再スタートした年なのだとか。今年は中国共産党創立百年ということで、そんな報道を見て、９年前の留学の日々が蘇りました。

確かに初めて降り立ったハルビン市は、全中国で17番目の規模とは言え当時既に人口５００万人を超える大都市です。表通りには高層ビルがそびえたち、街中で建築中のタワーマンションの巨大なフェンスには贅を尽くしたモデルルームの写真。しかし裏通りの光景は一変し、中国の経済成長の凄まじさと格差の大きさに愕然としたのを覚えています。

私が中国の伝統医学＝中医学に興味を持ったのは、高校時代から40年近く関わった身内の介護や、30年以上携わってきた放送番組制作で、ストレスが心だけでなくカラダに及ぼす深刻な影響を身をもって経験したことがきっかけでした。

カラダの一部に生じた故障を「治す」のなら現代医学が適していますが、人間にはそれだけではどうにもならないエネルギーの枯渇や、原因のはっきりしない痛みがあります。それを「癒やす」知恵と技術が古代から蓄積され、学問として体系づけられている中医学を、中国ではどう学び、医療の現場でどう使われているか直接この目で見たい！

そんな思いで中医学大学日本校に入学し、やがて短期留学した中国本校は、伝統医学の臨床研究基地として中国政府から地方重点大学の指定を受けている名門国立大学です。緑あふれる広大なキャンパスには大学病院や研究棟がいくつも並び、最先端の医療機器を備えた高層の新校舎や新病院を、当時ちょうど急ピッチで建設中でした。

伝統医学の大学なのに最先端機器？と、日本の感覚では不思議な感じを受けますが、医療システムが日本と違う中国では伝統療法を学ぶ大学も６年制で、中医師も医師として一通りの現代医学を学びます。大学病院でも、伝統的な診断や治療方法だけでなく、最新の検査の結果に基づいて、現代医学と伝統医学、両方の医師が連携して診察や治療に当たっているとのことでした。

ただ現場で見ていると、やはり中国であっても伝統医療は診療科によっては現代医療の補完的な役割であり、中医師の医師としてのポジションも、勉強する範囲があまりにも広い割に活躍の場が限定されているように感じました。緩和ケア病棟などでは中医学の良さを活かした治療が提供されていましたが、急速に近代化が進み常に新しいものが優先される社会の中では、伝統が存在価値を維持していくのは、やはり大変なことなのでしょう。

中医薬大学の教授陣は、中医師でありながら現代医学の博士号を取得している方が少なくないようで、私の指導教授の呉先生も日本に留学して順天堂大学で医学博士号を取得したそうです。そのおかげで中国語のできない私でも不自由なく指導が受けられたのですが、先生は日本語が堪能なだけでな

黒龍江中医薬大学キャンパス（筆者撮影）

く、日本人の感覚に近い細やかな気配りの持ち主でした。私は現在、都内で中医学理論をベースにした整体サロンを営んでいますが、今でもお手本としているのは、時間をかけてひとりの患者さんの心とカラダに真摯に向き合う呉先生の治療家としての在り方です。

その留学では私以外にも日本校の仲間数人が一緒に参加していました。中国の伝統医学を学びたいという共通目的以外では、年齢も職業も将来の目的もバラバラでしたが、純粋に知識や技術を深めたいという探究心や好奇心が旺盛な人が多かったのが印象的でした。

朝8時から18時まで授業を受け、夕食後も先生方に頼んでの2時間の特別補講。22時になると寮の部屋のシャワーのお湯が出なくなるため、大学構内を皆んなで走って帰ったのも（女子大時代に戻ったようで）今でも懐かしい思い出です。

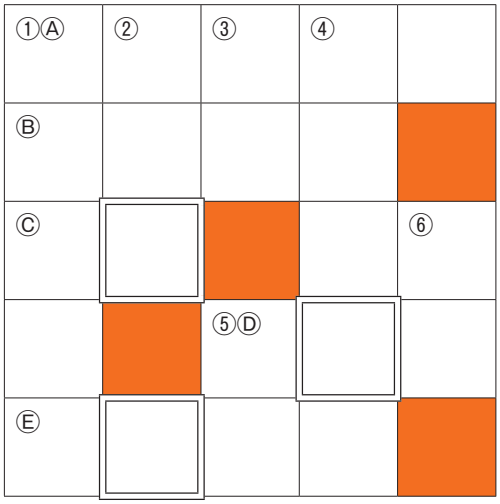
そして、そういう私たちの熱意に、精一杯応えてくださった呉先生をはじめとする先生方に対しても、思い返すと感謝の気持ちでいっぱいになります。日本とは歴史的に因縁の深いハルビンという土地で、しかも当時すでに急速に悪化して来ていた日中関係の中、私たちが危険な目や不愉快な目に遭わないように、休日も観光や食事に付き添ってくださった配慮は、もしかすると私たちが思う以上に大変なことだったのかもしれません。

まだまだ先行きの見えないコロナ禍と対中関係ですが、いつかまた笑顔で再会できる日が来ることを祈らずにはいられません。

ハガキ⇔コーナー

Post Card
We are tying the knot
SAVE the DATE
11·01·19
Lorem Ipsum
CHÈRE OFFICIER
Dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed do eiusmod tempor incididunt ut labore et dolore magna aliqua.
Ut enim ad minim veniam, quis nostrud exercitation ullamco laboris nisi ut aliquip ex ea commodo consequat.
Duis aute irure dolor in reprehenderit in voluptate velit esse cillum dolore eu fugiat nulla pariatur.
Excepteur sint occaecat cupidatat non proident, sunt in culpa qui officia deserunt mollit anim id est laborum.
TO ... MR. LOREM DOLOR
Address ... 154, FULIN OFFICIER
OFFICIER DESERUNT MOLLIT 1-23-5A6
Lorem Ipsum Dolor Sit Amet
Lorem Ipsum Dolor Sit Amet
Lorem Ipsum Dolor Sit Amet

クロスワードパズル　二重枠の文字を組み合わせてできる３文字の言葉は？



答え

タテのかぎ

①日本の主食を支える調理器具。近年は欧米やアジア諸国でも使われている。
②〇〇〇を通すのはよくない。
③日本全国の河川や湖で見られる水鳥の仲間。
④しないようにしましょう。
⑤イタリア・ロンバルディア州の観光地。古代ローマ時代から避暑地として知られる。
⑥日本では1000万人の愛好家がいるとか。川や海で楽しむ。

ヨコのかぎ

Ⓐ日本の夏の風物詩を味わうゲーム。目隠しと棒が必需品。
Ⓑ世界遺産リストに収録される物件の指定をユネスコおよび世界遺産委員会に答申する機関。
Ⓒ〇〇をかく。
Ⓓ赤ちゃんに聞かせる〇〇〇歌。
Ⓔ飲み物や食べ物など、劇中でなくなる小道具のこと。

＜ヒント＞

今や、メールには欠かせないアイテム。

◆解答を同封のハガキかインターネットからご応募ください。（11月30日締め切り）
正解者10名に図書カードを贈呈します。（応募者多数の場合は抽選）
◆前回の正解は＜りきし（力士）＞でした。
たくさんのご応募ありがとうございました。

【当選者】（敬称略・数字は回生）

竹内　和子（15）　植木　和美（18）　永原　美津枝（18）　浅尾　邦代（20）　二宮　朋子（23）　大城　静枝（26）
村上　真理子（39）　高本　寿美（44）　栗木　有理（61）　宮地　眞子（69）

回生委員の皆さまへ　令和3（2021）年度　第1回　回生委員会のお知らせ

回生委員会が開催できない状況が続いておりますが、皆様お元気でいらっしゃいますか。

新型コロナウイルスの感染拡大は、ワクチン接種が進んではきましたがまだまだ予断を許さない状況が続いています。

そこで今回オンライン（Zoom会議）にて、回生委員会を開催することと致しました。遠方の方、はじめての方も是非この機会にご出席頂き、回生を越えて話し合いができたら幸いです。

日時：2021年10月30日（土）　13:30～15:00
議題：①会長挨拶　②令和3年度各部事業計画
③「第60回大会」報告　④自己紹介（歓談）
出席申し込み：
メールの件名を「Zoom での回生委員会出席」とし、回生、氏名を記して、nakagomechino@gmail.com へ 10 月 22 日（金）18：00 までにメールをお送り下さい。
頂きましたメール宛てに Zoom に参加するための URL を担当者（中込）よりお送り致します。

＊ご不明な点がありましたら、回生委員長・萩野までご連絡ください。　**萩野 厚美（25 回生）　TEL・FAX　0467（83）4054**

編集後記

★こんな時期ですが、英国からドイツに引越しました。各国のコロナへの対応や姿勢の違いに驚くと共に、背景には国民性や今日までの人間教育の在り方が大きく影響していると感じます。「見えないけど確かにあるつながりを大切にできるような」魅力的な新キャンパス、コロナが落ち着いたらぜひ行きたい楽しみの一つになりました。
（佐野加奈子　59回生）

★「教育とは相手が本当に理解したか気になって仕方がないコミュニケーション」、本当に奥が深いなと思いました。会報も読んでくださっているのか気になって仕方ないので（笑）お葉書お待ちしています。いつも楽しみにしてるんです。
（星野ひろみ　37回生）

★生活を一変させたコロナ禍で、オンラインの活用は教育学科の会にも進化をもたらしたように思います。理事会から始まって、懇話会、大会もZoom開催になり、遠方から、また初めての参加もいただきました。参加のハードルが下がったとしたらうれしいです。まず一歩、片桐先生の懇話会に参加してみませんか。Zoomの使い方もお教えいたします。
（石井美奈子　38回生　会報編集部長）

年号表記の記載につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。